

2013年チリ産フレイムレーズン市況



2013年のチリ産フレイムレーズンは大幅な供給減となっており、とりわけ日本向けに多く出荷されるジャンボサイズに関しては更に厳しい状況です。

チリ産レーズンは、従来フレッシュ市場の出荷を優先させ、余剰分をレーズンにするのが通例ですが、今期はフレッシュグレープの引き合いの強さから、フレイムレーズンの供給はタイトになるだろうと予想されていました。更に今期は春先に暖かい日が続いた事により寒暖の差がなく、原料品質に不安を抱いた農家が売れ残りを懸念し、フレッシュの出荷を増加させた結果、色の濃い高品質のフレイムレーズンが極端に少なくなっています。オファーを取り止めているパッカーが多数ですが、依然市場からの引き合いが強く、現地価格はトン当たり3千ドルの提示からスタートし、4千ドル近くまで高騰しています。

また3月には主要港を中心とする大規模な港湾ストライキが発生し、港湾のオペレーションが長期間ストップするという事態が発生しました。この影響で、食品類の輸出はもちろんの事、銅、パルプなどの資源産業の輸出に大打撃を与えました。

このストライキによりレーズンが出荷されず、商品の逼迫感に一層拍車をかけ、一時日本市場でもかなりの品薄状態が続きました。

